― ― ― ― 高木学校の軌跡 ― ― ― ―

1998年…第0回夏の学校／第1回連続講座 化学物質と生活

1999年…第2回連続講座 エネルギーと生活

2000年…第3回連続講座 リサイクルを超えて

2001年…第4回連続講座 これからの原子力問題

2002年…第5回連続講座 現代物質文明の代償

2003年…第6回市民講座 原子力と環境教育を考える

2004年…第7回市民講座 リサイクルで解決するの？／第8回市民講座 医療被ばくをどう考えるか

2005年…第9回市民講座 医療被ばくをどう考えるか Part 2

2006年…第10回市民講座 医療被ばくをどう減らすか

2007年…第11回市民講座 医療被ばくを減らすために

2008年…高木学校 10周年記念のつどい／第12回市民講座 "がん検診"で寿命は延びるか？

2009年…第13回市民講座 やめられない、とまらないがん検診

2010年…第14回市民講座 やめられない、とまらないがん検診 Part 2

2012年…第15回市民講座 原発事故から未来のいのちを守れるか？

「高木学校サポートの会」へのおさそい

●高木学校サポートの会は主に資金面から高木学校の運営を支え、会員の種類は3種類、年会費は次のとおりです。

★高木学校通信購読会員　1,200円
★ブドリ会員　6,000円
★クーボー会員　20,000円
（ブドリ、クーボーは宮澤賢治『グスコーブドリの伝記』に由来します。）

問題意識は共有するけど、高木学校メンバーとして活動するのは難しいとおっしゃる方、サポート会員として交流しませんか？

会員へは隔月刊の「高木学校通信」をお届けし、発行物は会員価格でお求めになれます。また市民講座の案内、諸企画へのお誘いなど随時お送りします。

＊お問い合わせは、高木学校事務局へファックス、E メールでどうぞ。

2012.11 印刷

高木学校

for Alternative Scientists

市民の科学をめざして…

高木学校事務局

〒162-0065
東京都新宿区住吉町 8-5
曙橋コーポ２Ｆ
Tel：03-3353-2928
Fax：03-3357-3801
E-mail：takasas@ja.main.jp
URL：http://takasas.main.jp
郵便振替：00150-8-28425

都営地下鉄新宿線曙橋駅 A3 徒歩２分

高木学校とは

1997年、高木仁三郎はプルトニウム利用の危険性を世界に広く知らせたとライト・ライブリフッド賞を受賞しました。この賞は平和や人権、環境など人類が今日直面する課題の解決に力を尽くした人に与えられ、もう一つのノーベル賞と呼ばれます。現代社会の直面する諸問題に市民の視点から取り組むことの出来る「市民科学者」を育成したいと、趣旨に協賛する市民の支援も得て、この賞金を原資に1998年春高木学校はスタートしました。2000年彼の死後も高木学校に集うメンバーが市民科学者をめざし引き続き活動を続けており、2004年からは医療被ばく問題を中心に市民講座を開き、がん検診による医療被ばく問題に取り組んできました。2011年3月11日の福島原発震災以降は、崎山比早子さんのＴＶ番組出演や国会参考人招致にとどまらず、低線量被ばくに不安を抱く市民からの要請に応えメンバーが出前講演を行なっています。

高木仁三郎（1938ー2000）プロファイル

1938年群馬県前橋市に生まれ。61年東大理学部卒業後、日本原子力事業、65年東大原子核研究所、69年東京都立大学助教授、72年マックス・プランク核物理研究所客員研究員、73年都立大を退職。75年原子力資料情報室設立、86年より98年まで原子力資料情報室代表。プルトニウム利用問題の批判的研究と活動で国際的に高い評価を得る。92年多田謡子反権力人権賞、95年イーハトーブ賞、97年長崎被爆者手帳友の会平和賞・ライト・ライブリフッド賞、2000年田尻賞受賞。原子力時代の末期症状による大事故の危険性と、放射性廃棄物がたれ流しになっていくことに対する危惧の念を最後のメッセージに残し、2000年10月死去。

高木仁三郎著作

『新装版 食卓に上がった放射能』高木仁三郎・渡辺美紀子2011、『新装版 チェルノブイリ原発事故』2011、『新装版 反原発、出前します』反原発出前のお店編・高木仁三郎監修2011、『高木仁三郎著作集』全12巻2004以上七つ森書館、『新装版 いま自然をどうみるか』白水社2011、『原子力神話からの解放』講談社プラスアルファ文庫2011、『鳥たちの舞うとき』工作舎2000、『原発事故はなぜくりかえすのか』 岩波新書2000、『市民科学者として生きる』岩波新書1999、『市民の科学をめざして』 朝日選書1999、『プルトニウムの未来』岩波新書1994、『プルトニウムの恐怖』 岩波新書1981他多数。

◆**市 民 講 座**…… 高木学校の成果を広く市民に問う最重要の催しで、毎年カタログハウスセミナーホールで開催しています。次頁をご参照ください。

◆**月例勉強会**…… メンバー内の研鑽を目的に、随時外部講師を招き開催します。 最近では、「乳・胃・肺がん県別検診受診率と死亡率の相関」、「医療従事者における電離放射線被ばくのリスク評価」（講師・木村真三）、「自治体におけるがん検診の実情」（講師・池尻成二）、「網野皓之を読む」など。

◆**出 前 講 師**…… 高木学校から講師を派遣します。声をかけていただければ、小さな集まりでも講師や寸劇の出前に出かけます。福島原発事故以降は、被ばくを心配する市民からの講演依頼が押し寄せていますが、メンバー内で調整しながら、出前注文に応えられるよう努めています。お問い合わせはＥメール、電話、ファックスでどうぞ。

＊高木学校ウエッブ･サイト http://takasas.main.jp には、市民講座、勉強会、見学会などの案内や、新着情報、高木学校通信バックナンバーの紹介、書籍注文用のウエッブ・ショップがありますのでご覧ください。

〈高木学校ではこんなグループが活動しています〉

★医療被ばく問題研究グループ

世界でも突出して多い日本の医療被ばくを低減するため、医学・生物学の知見を学びながら、線量の記録手帳や解説する冊子の頒布、出前講座などをおこなっています。被ばくする市民の声を聞き、学会、業界、行政にはたらきかけます。

★原子力問題研究グループ

放射線の人体や環境に与える影響やその防護について学んでいます。
原子力を取り巻くさまざまな問題を次世代にどう伝えていくか、「原子力教育を考える会」と連携した活動もおこなっています。

★リサイクル班

身のまわりから出るプラスチックごみやコンクリートの廃材など、私たちの生活と関わりの深いものをとりあげています。リサイクルの現実と課題を現場の調査を重ねて明らかにし、ごみの少ない社会を実現するための方策を探ります。

★化学物質問題研究グループ

市民の視点でダイオキシン、環境ホルモンなど氾濫する化学物質がもたらす問題にとりくんでいます。工場見学などを通して科学技術のあり方を問い直します。

★寸劇部＋話し方教室

話の内容が良くても、
相手にわかる「言い方」でなければ、伝わりにくく、もったいない。「人の心を掴む」表現技法を磨き、寸劇上演。サポートの会キャプテン・林洋子が指導。

★くらしの中からかえるプロジェクト

一人一人のくらしに根ざした、草の根からの当事者による問題の発見（環境・社会の問題）を支援し、その活動の記録を行ってゆく。また当事者による政策提言の可能性を広げるための基礎的な研究を行う。

＊上記グループの活動に興味のある方は、事務局までお問い合わせください